

シグマ研究委員会

62年度第4回運営委員会議事録

日時 昭和62年11月6日(金) 13:30-17:30
場所 日本原子力研究所本部第5会議室
出席者 鹿園(委員長:原研)
梶山(東北大)、中沢(東大)、中嶋(法大)、村田(NAIG)、
五十嵐、金子、長谷川、水本、(原研)
幹事:浅見、中川(原研)
オブザーバー:瑞慶覧(日立)、吉田(NAIG)

配付資料

1. 62年度第3回運営委員会議事録(案)
2. Announcement: 5th International Symposium on Nucleon Induced Reactions
3. シグマ研究委員会会合開催状況
4. 第30回NEACRP会合報告
5. 第16回INDC会合報告
6. IAEA専門家会議(Geel会議)報告
7. 核データ国際会議発表申し込み件数
8. JENDL-3Tの引用の仕方について
9. Specialist' Meeting on Data for Decay Heat Predictions
10. INDL/Fへの対応について

議事

1. 前回議事録確認
資料1により確認を行った。
2. 事務局報告
 - (1) 資料2により5th International Symposium on Nucleon Induced Reactionsの紹介があった。
 - (2) 資料3によりシグマ委のWG会合の開催状況について報告があった。
これに関連して旅費の配分について討議が行われ、研究会終了後に、旅費の今後の使用案を作成することにした。
3. NEACRP会合報告
金子氏から資料4により9月14日~18日にヘルシンキで行われた第30回NEACRP会合の報告があった。その中で、提出された技術論文の解説、次回会合のトピックスの紹介等があった。また、次回は日本で

開催する予定とのことであった。これらに関連して質疑応答が行われた。

4. I N D C 会合報告

鹿園氏から資料5により10月19日～23日に中国で開催された第16回I N D C 会合について報告があった。その中で、今後の国際会議の予定、核融合炉技術のための国際核データライブラリー、I A E A / N D S の活動、中国の核データ活動等について説明があった。これらについて議論が行われ、とくにI T E R に関する質疑応答があった。

5. S t u d s v i k 会議報告

吉田氏から、資料9により9月7日～10日にスウェーデンのStuds vikで行われたData for Decay Heat Predictions の専門家会議の概要について報告があった。その中で、各出席者の報告、Working Group作業の概要ならびに崩壊熱計算コードの国際比較、N E A N D C のTask Force等についての説明があった。

6. G e e l 会議報告

水本氏から、資料6により9月21日～24日にGeelで行われたInfluence of Target and Sample Properties on Nuclear MeasurementsのI A E A 専門家会議について報告があった。その中で、出席した核データ実験者からの報告、I A E A に対する勧告の作成の概要について説明があった。また、訪問したスイス・ヴィリゲン原子核研究所のSpallation neutron sourceについての説明があった。

7. 核データ国際会議準備状況報告

五十嵐氏から資料7により、10月19日までの核データ国際会議の発表申し込み件数、仮登録の申し込み件数ならびに今後の予定についての説明があった。

8. 核データ研究会準備状況報告

瑞慶覧氏から、11月12・13日に行われる核データ研究会の準備状況について報告があり、その中で今年は会場が原子力普及センターに、懇親会の会場が東海会館になったことの説明があった。

9. 原子力学会特別会合

中川氏から、次の原子力学会（4月4日～6日：東工大）における核データ・炉物理合同特別会合のテーマおよび講師の案を1月8日の学会のプログラム編集委員会に提出する必要があるとの説明があり討議を行い、テーマには消滅処理および新型炉を取り上げることにした。

10. I N D L / F への対応

11月16日～18日にI A E A で行われるI N D L / F に関する会議

に柴田氏（原研・核データセンター）が出席するのに当り、この会議への日本の対応の仕方ならびに来年の核データ国際会議後に行われる同種の会議への対応について討議を行った。

浅見氏から、この件について原研核データセンターで議論した結果の概要（資料10）について説明があった後に討議を行い、次のような意見が出された。

- I N D L / F への対応について先に W G で議論が行われたが、運営委員会で議論すべきであり海外へ個人で対応するのはまずい。
- W G はサポートすることを決めただけである。
- 日本側の I T E R の関係者である苦米地氏に連絡をとるべきであった。
- そうすれば、日本は核データに深入りせざるをえなくなるが、それでよいか。
- I T E R に占める核データの割合は小さい。
- 日本の核融合研究者は J E N D L - 3 があればよい。
- 世界の統一ファイルがあれば便利である。等々

この結果、前回の結論である「日本としては I N D L / F の作成に協力してゆく、J E N D L - 3 のための評価済みデータも必要であれば提供する。」の通りで対応することにした。

1 1 . I A E A Consultants' Meeting への対応

五十嵐氏から、次のような説明があった。

核データ国際会議の直前に日本で C M on the Physics of Neutron Emission in the Fission Process を開催することについて I A E A から 科技厅を通じて問い合わせがあり了承した。また、大沢氏（九大）、馬場氏（東北大）、中込氏（京大炉）に参加を依頼した。

1 2 . J E N D L 3 T の引用について

浅見氏から、J E N D L 編集グループで検討した J E N D L - 3 T の引用の仕方（資料8）について説明があり、了承された。このことを J E N D L - 3 T の利用者に連絡することにした。

1 3 . J E N D L アンケート

村田氏から、J E N D L - 3 の核データ評価に関するアンケート調査を核データ専門部会が主体となって行う旨の説明があった。

1 4 . 6 3 年度活動計画

各専門部会での来年度の大きな目標について、村田氏、長谷川氏、中嶋氏からそれぞれ説明を受けて議論を行った。その結果、各 W G 毎に議論をするのは実際的でないので、1 2 月中に各専門部会毎にグループリ

一ター会合を開催して議論してもらい、次回に報告してもらうことにした。

次回は1月18日（月）に東京で行うことにした。